
ながされて藍蘭島 最強の原作ブレイカー！

赤 & 緑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ながされて藍蘭島 最強の原作ブレイカー！

【Nコード】

N4094R

【作者名】

赤&緑

【あらすじ】

俺は高野良也。15歳の中学生3年生だ。修学旅行で沖縄に来ていた。自由行動中に俺は海が良く見える崖に来ていた。そこで足を滑らせて・・・気がつけば白い部屋？にいた・・・

はい、どもー、赤&緑です。今回処女作となります。駄文ですが、どうぞ夜露死苦ーお願いします。

（これには、「ご都合主義」、「あたいたら最強ね！」、「フリダム」、「ちよつとだけ残酷？」、それと「作者の二重人格（赤

と緑)「が含まれます。・・・。それでも良ければ、お読みください。

てか、お願いします！呼んでください！(赤)ユニコーンッ！！(緑)・・・え？ガンダム？(赤)

おとされて

沖縄のとある旅館内。

友則「明日、海に海行こう！」

夕飯を終え各自与えられた部屋に戻る。

部屋はそれぞれ4人づつ入るようにしてある。

その途中、悪友（変態）である友則が言ってきた

良也「海？ お前泳げたの？」

友則「ばっ！それは言わない約束だろ！」

よく見ると、他の同じクラスの奴らがクスクスと笑っていた

友則「泳ぐんじゃない・・・ナンパしに行こウボラッ！！・・・」

殴って黙らせる

良也「ふん、話になんないな。俺は景色のいいとこにいて昼寝していた方がいい」

こっちはそんな無駄なことに費やしてる暇は無いんだよ。

友則「そんなこと言うなって一緒にや・ら・な・い・か？」

良也「五月蠅い。一人で行きやがれ。じゃなかったら誰か違う奴を誘え」

友則は悪態をつくと他の奴を探しに行った。
あのヤロウ諦めるということはしないのか・・・？

30分後・・・友則（変態）は戻ってきた・・・

そう・・・頬に紅葉をつけて・・・

理由を聞いたところ、ナンパのことを話していたところ他の男子が女子の部屋に遊びに行こうという計画を持ちかけてきたそうだ
まあ、その提案に反対する奴はほとんどいなく、皆ノリノリであったが女子の部屋に入ったところいきなりBI N T Aをくらったらしい・・・アホだな。

良也「んで、諦める気になったか？」

友則「いや！まだだ！まだやれる！！」

お前はどこの団の船長か？

それから、あまりにも友則が五月蠅いから首に手刀で一発

友則「がつ！！」バタ・・・

良也「ふゝ、やっと静かになったな」

只今、二十二時三十分。そろそろ消灯時間になるな

良也「そろそろ寝るか・・・」

それから布団を敷き寝た。

え？友則？は？誰それ？

・ ・ ・ ・ ・

翌日。

良也「良く寝たぜ。・・・うん？」

布団から起きて伸びをしていると、部屋の隅で何か倒れていた。

良也「おい、誰だ？ こんな所にゴミを置いた奴は」

友則「誰がゴミかつ！？ 俺は人間だ！ 撤回を要求する！」

何と、倒れていたのは友則だった。まだ紅葉がついてやがる。

良也「それよりも何で隅っこにいたんだ？」

友則「誰の性だろうな？」

いきなり問題か。

ふむ、何故コイツは布団も被らず隅にいたのか・・・・・・・・分かつ

たぜ。

良也「ふん、簡単なことだ。お前・・・・・・・・・・寝相悪いだろ？」

俺は自信満々に答えた。これは正解だろう。

友則「違えよ！ お前がチョップ喰らわせて倒したままだったんだろうが！」

良也「・・・・・・・・・・はっ！ そうだった」

今思い出した。

友則「ふざけんなよコラ！」

良也「まあいいじゃん。元々五月蠅かったお前が悪いんだ。それよりそろそろ朝食時間だ、行こうぜ」

朝食を摂りに部屋を出る。友則もついてきた。

朝食を食べ終わり、これからは一日自由行動だ
あの変態（友則）は他の友だちをつれて懲りずにナンパに行ったぞ
うだ

俺はというと・・・

良也「ふう〜、ここがいいな」

俺は海が良く見えるところを3時間くらい探してあちこちを歩いていた。

そして、見つけたのが海から約10mくらいの崖だ

俺はそこで

良也「寝るか」

昨日、言ったとおりに昼寝を始めた・・・

6時間後・・・

ポツ・・・

良也「ん？」

鼻のあたりに水滴が落ちてきた

良也「え？雨か？」

ならば、早く旅館に戻らねばと思いついた瞬間

ブワッ!!

強い風が吹いてきた・・・これだけで大抵の人は分かるだろう
風によりバランスを失いそのまま

崖から落ちた・・・

おはなしして（前書き）

今回は短いです・・・（赤）

ピーチ味のMINTIAが美味すぎる件について語ろうか？（緑）

今はその話じゃないでしょルイー〇・・・（赤）

話が短いからしようと思っただけ。それと自分は永遠の2番手では無いぞ？（縁）

黙れ！いつまでも優しい「うゝ」だと思ったら大間違いだぞ！！（赤）

何も言うまい・・・ まあでも今回も楽しんでいってもらえれば

光栄ですな（縁）

ゆっくりしていいね！（赤）

おはなしして

・ ・ ・ ・

― 辺り一面、白い―

此処は何処？

― 何も見えない、何もいない―

なあ、誰か応えてくれ。

― 何も無い、白い中に1人―

俺はどうなったんだ…？

―そんな中にちょっとした変化―

？「君はね、死んだんだ」

―白い中に響く声―

誰だ？

？「ボク？ ていうか自己紹介の前に姿を見せようか、喋りづら
いし」

―気付けば目の前に子供が立っていた―

？「ボクは見ての通り、神様だよ」

…はあ！？ 神様だと！

神 「そっだよ？ 凄いでしょ」

「そっというと何故か楽しそうに良也の周りをクルクル回っていた」

何でこんな所に神様なんかが…？

神 「ボクは神様が名前じゃないよ。『ミラ』って名前が在るんだよ」

「頬を膨らませて拗ねてしまった」

分かったよ、ミラ。で、何でこんな所にいるんだ？ てかここ何処だ。

ミラ 「此処はボクの部屋。ボクだけの世界だよ」

「名前を呼ばれたのが嬉しいのか、機嫌が戻っている」

だから、俺は何で此処にいるんだ？

「ミラは首を傾げ、マークを浮かべていた」

ミラ 「だからさっきも言ったじゃん。キミは死んだんだって。だから此処にいるんだよ」

……………。

「落ちて着け高野 良也。確かに俺は崖から落ちた。俺は、死んだのか？」

ミラ「キミは崖から落ちた後、波に流されながら岩に叩き付けられたんだ。内臓やらが一発でおじゃんさ」

「ミラは見せようか？と言って、何処からかモニターを出した。其処には俺だったらしい物体が岩盤に叩き付けられた画像が映し出されていた。」

……。

ミラ「そうだよ。誰だって自分の死体を見せられたら言葉だって無くすよ」

…… コレは俺なのか…？

ミラ「そうだよ」

じ、冗談じゃない！ 俺はまだ15年しか生きてないんだぞ、いきなり死んだなんて言われて納得できるか！？

ミラ「だからボクが此処に喚んだんじゃないか」

黙りやがれ！ ガキに何ができる！？

ミラ「ボクはガキじゃない！神だ！」

―一瞬、ミラの雰囲気が変わったような気がした―

な…！？

ミラ「ちょっと黙ってて貰うよ。これからやることは難しいことなんだ」

―ミラが近づいて、小さな両手を此方の両目に伸ばしてきた―

な…にを…？

ミラ「内臓やら皮膚やらは出来たけど、眼だけはプレゼントだよ」

―笑顔を見せたと思った瞬間、ミラの両手が俺の両目を抉り取った―

え！？ は、え！？

―とたんに身体に激痛が走る―

ああ、ああああっ！！？

ミラ「プレゼントだよ、ボクの魔眼をあげるよ」

―今度は目が在った部分にグジュリと音を立てながら眼が生えてきた―

ミラ「終わったよ。見えるだろう？」

あ、ああ…。

ミラ「ボクの眼は結構強力だから。使うときは気をつけなよ?」

いや、使うもなにも…。

ミラ「そろそろ時間だね」

何を言ってるんだ…?

ミラ「まあ、着けば分かるよ」
いや、本当に何を言ってる…。

ミラ「オープン」

「パカツ、という音と共に襲いかかる浮遊感」

だから何を言ってるんだ――…。

「こうして、二度目の暗闇に突入し、意識を遮断した」

ながされて（前書き）

今回は漸く藍蘭島に入るよね（緑）

案外そうでもないかもよ（赤）

なあ、疑問なんだけどさ、ことさん（オババ）いるじゃん？あの人
って入れ歯なん？（緑）

ルイー○、貴方に分からないことが俺に分かるはずが無いでしょう
（赤）

本編どうぞ・・・・・・・・

ながされて

・ ・ ・ ・ ・

〔東方院サイド〕

ボオオオ・・・

？「午前10時・・・」

？「いつもなら今頃・・・2時間目の授業中ってところか・・・」

？「・・・」

？「フフフ・・・」

？「ザマーミロー！クソ親父！！僕は、今、自由なんだーーーー！！」

僕の名前は東方院行人。

14歳だ

今の状況はいわゆる家出というヤツだ。

ここのん気に自己紹介をしているのだが・・・

実はそんなに余裕はない．．．．．なぜなら．．．

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ！！！！！！

行「わーーーー！！！！！！！！！！」

そう．．．嵐の真っ只中に居るからだ．．．

行「さっきまで晴れてたのになんだアガバガボ！？」

先日、父親と喧嘩してしまい勢いで家を飛び出してしまった

勉強やらなんやらで拍車がかかってしまったのかも知れない

行「し．．．死ぬかと思った．．．．．」

まあ、せっかく旅をするならと思い船に乗ったのだが、運悪く転落．
．．．．

く東方院アウトく

く主人公サイドく

ん？俺の視点か？

んじゃー、まず俺の今の状況を皆様にお伝えしよう……

落ちてます……

え？タイトルと違っって？

細けえこたぁいいんだよ！

ん？キャラが壊れてるって？

目弄られておかしくなりました（キリッ！

とまあ、今も落ちてるわけですが……………

良「なーんか見たことあんだよなー、あの山……………」

日本で言うなら富士山……………てか瓜二つだよね？

良「ううゝむ……あ」

なあーんか見たことあると思ったら

良「もしかして……ここ藍蘭島か!？」

はーいきました王道テンプレ

はあー……メンドイ

一応、原作知識はあるけど……

良「俺ってあんまし行人好きじゃねーんだよなー」

だってさ、あんのハーレム野郎のドコを好きになれというんだ!
(作者(赤)も同意見)

良「てか、着地どうしよう……」

・

・ ・ ・

まあ、なるようになるだろ！

モゾモゾ・・・

良「ん？」

なんか背中に居やがる・・・それを俺は・・・

ムンズ！

掴んで引つ張る！！

？「ゆ！？」

良「……………」

？「……………」

オウ…………ナンデゆっくり？

良「なんでお前が居る？」

ゆ「ゆっくりしてってね！」

……………まあいいか

良「なんでゆっくりが居んのかは知らねえがあと少しで地面だし、あの自称（神）がくれた能力でも試してみつか……………このゆっくりに」

ゆ「ゆ！？ゆゆゆゆゆ！？！？？」

めっちゃ暴れてる……そんなに嫌か？

良「ゆっくり、お前に拒否権はねえ！！！」

ゆ「……（ガーン）」

まあ、神の魔眼だって言うんだし試しにアニメのやつでもやってみつか

良「写輪眼！」

言ったとたん、良也の両目に三つずつ勾玉の様なものが出てきた

良「おお！なんか世界が少し遅く感じるぞ！」

ゆ「ゆ？」

おう、そうだ

良「ゆっくり、俺の目を見る」

ゆ「ゆ？．．．ゆ（ガクッ）．．．」

ありや？気？を失つてらあ

良「まあいい！そろそろ着くしな！着地準備！」

ヒュウウウウウン．．．．．ドガー．．．！

良「よし！着地成功！」

少女「……………（ポカーン）」

そこにはボロボロになっている行人と口を開けたまま呆然と立っている少女がいた……………

～主人公アウト～

～少女サイド～

私の名前はすず！

昨日はすごい嵐だったから今日は大きいお魚がつれると思って家族のとなかつと一緒に海に釣りに来ていたんだけど、なんだか釣れたのがお魚じゃなくてヒトを釣っちゃったんだよ～～～

一応、オババに教えられた人工呼吸もやったハズなんだけどそのヒトなんか白くなっちゃうし……………

うにゃーーーー！！

すず「やっぱりこう言う時はオババの所に連れて行ったほうがいいのかなあ？・・・うん！そうしよう！」

そして、そのヒトをおぶってオババのところにいくとしたとき・・・

ヒュウウウウウン・・・・・・・・・・ドガーーーン！！！！

？「よし！着地成功！」

私ビックリしちゃった！いきなりヒトが落ちて来るんだもん！

？「おい、大丈夫か？」

そのヒトが話しかけてきた、なんかちょっと怖いかも・・・

すず「う・・・うん、大丈夫だよ・・・」

？「そっか、ああ、俺は高野良也って言うんだ、呼び方は良でも良さんでも良也でもなんでもいから、んでこいつがゆっくりだ」

ゆ「ゆ！」

にゃ〜！なんか可愛い動物がいるよ〜

良「んで〜君は？」

あ！そうだった

すず「私はすずだよ」

良「すずだね、覚えた！と、話しているけどなんかそいつの顔色がなんか明日の○ヨ一の最終回みたいになってるぞ？」

あしたのじょーってなんだろう？ってそれどころじゃないよーー！
（伏せ字の意味ねえ・・・（作者））

すず「にゃーー！！！！早くこのヒトをオババのところに連れて行かないと〜！」

良「ふーん、あ、俺が運ぶからすずは道案内をお願いできるかな？」

すず「え？で・・・でもこのヒト結構重いよ？」

良「大丈夫、楽勝だから」

すず「そう？じゃあお願いするね」

良「任された！」

くすずアウトく

キングクリムゾン！！

（え？パクリ？いいじゃん！言ってみたかったんだ！！）

く主人公サイドく

とまあく着地したとこに行人とすずがいて話して行人とオババのとこに連れて来たわけですが・・・

良「なんだよこいつ」

すず「良也、そのヒト、オババだよ」

ええ、嘘、どう見たってゴリラじゃん、どこから見てもゴリラじゃん！

オババ「お主、今よからぬ事を考えてはおらぬか？」

良「気のせいです」

オババ「そうか、わしも歳かの？」

そんな話をしている内にすずが行人の世話をせつせとしている

俺はオババとの会話も終わり暇になったから部屋の隅のほうで壁に背を預けて眠りについた……

～主人公アウト～

くオババサイドく

ん？わしにも視点かの？

ワイワイ・・・ガヤガヤ・・・

「何々？どうしたの？」

「外の人流れ着いたんだって」

「ええ！？ホント？！」

「へへ、あれがおく」

「ほら、あつちにも居るよ！」

「あ！ホントだー」

どんどん村人がわしの家に集まってきたおる

まったく仕事もサボりおって！

すず「どう？オババ」

オババ「うむ、もう大丈夫じゃろ。まったく助けるつもりでトドメさしてどうする」

すず「いやー、失敗失敗・・・」

すず「それにしてもなんかみんな集まっちゃったねー」

オババ「まあ、無理も無い。この島に「外」の人間が来たのは初めてじゃからのう」

すず「そだね」

すず「それにしても、この人たち体つきがウチラと違うよね・・・
なんでかな？」

オババ「それはのう、すず、こやつは・・・」

男なんじゃよ
」

「「「「「男オ！？」
「「「「「

「オババアウト」

もう少し続けぜ！

「主人公サイド」

ん？いつの間にか寝ちまつてたな

ありゃ？なんだ？村人達がいk・・・あーそうか男をはじめて見るから行人に興味津々のとこだっけ・・・

まあ、とりあえず話しかけるか

良「おい、てめえら少しは声を小さくしろい」

ガヤガヤ・・・ワーワー・・・

良「おい！だから！こえをも「ガヤガヤ」・・・」

ブチ・・・

「「「「「「「「すみませんでした！……！！……！！」」」」」」

その土下座はとても綺麗だったそうだ

良「まあ、そろそろそのヤツも起きるだろうし、ひとまずお前達は解散！仕事戻れ！」

「「「「「「「「失礼しました！！！！」」」」」」」」

オババ「……………」

すず「……………」

良「ん？なんだよ」

オババ「いや、すごかったのう先ほどの喝は」

すず「うにゃ〜、耳がジンジンしたよ〜」

良「はははは！すまんすまん！」

そう言いながら俺はすずの頭に手を置き、頭を撫でた……やっぱ撫でるスキルは欲しいよね！

すず「うにゃ〜くすぐりたいよ〜」

良「すまん、可愛かったもんでつい、失礼した」

そついい、すずの頭から手をどけた時「あ……／＼／」とすずが言ったのはスルーしよう。

行「ん……ん？」

お、行人が起きたみたいだな、なんかとんかつとゆっくりが行人の腹の上に乗ってるけど……

行「……………なんだこれ？」

まあ、このあとは原作と同じだったから省略するぜ！決して作者がめんどくさくなった訳ではないのでそここのとこ注意！

その後、行人が海に何かしているときに俺はすずの家に来ていた

地理は全然だけど適当に歩いていたら着いたぜ

それで、俺の目的だけど・・・

良「そろそろ出てきたらどうだ・・・西の主・・・からあげ」

からあげ・・・現、主の中でも最強の主である

俺の目的はコイツに手合わせ申し込みに来た

か「あらら、ばれてのか。君、なかなか鋭いね・・・」

良「アホか、頭のトサカ見えてたぞ・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・

か「で、僕に何の用だい？」

話し変えやがったー！！恥ずかしがりながらも変えやがったーー！！！！

良「無理しなくてもいいぞ？」

か「ごめん、すごく自分の失態が恥ずかしい・・・・」

良「大丈夫だつて、人もさることながら動物にだって失敗はある！断言できる」

か「そう言ってもらえると助かる・・・・それでただ僕に会いに来たわけじゃないんじゃない？」

やっぱ腐っても主・・・鋭い・・・

良「ああ、少し手合わせをしてほしくてな・・・」

か「ホウ・・・主である僕に・・・いいだろう・・・
ただし」

からあげの空気が変わった・・・

か「本気でこないと・・・死ぬよ？」

良「は！！元からその気だ！」

くからあげサイドく

悔っていた・・・まさかこの人間がここまで強いなんて！

良「ハアアア！！！」

相手が僕に突っ込んでくる

ただ突っ込んで攻撃してくるならまだいい・・・

良「フッ！」

か「な！？消えた！」

そう、スピードが段違いだ

今の僕の最大のスピードを10だとすれば、彼の本気は100をも超える！

今の僕は彼の動くのを目で追うのでやつとの状態だ

良「こっちだぞ！」

か「くう!!」

クソ!こうなったら!

か「飛鷄流!「風車」!!」

からあげが回転しそのまま良也に突っ込んでいく

良「は!何だ?そのちんけな技は?」

な！？馬鹿な！片手で受け止めるだと！

良く見れば手には傷一つ付いてない……

良「おいおい、主つてのはこんなもんか？……期待はずれだ」

「写輪眼」

か「な！……あ……（ガク）……」

・ ・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・ ・

「ここは？どこだ？」

「！なんでしばられて

？」
「・・・」

刃物を持った男が近づいてくる

か「やめる・・・」

男が刃物を振り上げる・・・そして・・・

ザシュ・・・

か「ああああアアアアアああああアアア！！！！！！！！！！」

ザシュザシュザシュザシュザシュザシュザシュ！！！！！！

血がとび、皮を剥がされ頭をエグラレル．．．．．

か「ああああ．．．あががばあが．．．．．」

．．．．．あ．．．．．た．．．．．

か「え．．．．．」

．．．．．あな．．．．．

か「ああああ．．．．．」

？「コケコッコー――――！！！！！！」

か「は！、こ．．．こ」は

妻「我が家ですよ」

もも「おとうさん大丈夫？」

ささみ「大丈夫？」

娘達が僕の心配をしている

妻「さっき男の人があなたをここまで運んでくださったのよ」

か「そうだったのか……」

原因はあの眼か……ということはさっきのは幻術？

そんなことを考えていると……

良「よー、起きたか？うん、異常はなさそうだな」

か「なんで助けた？」

僕は知りたかった、この男の本心を

良「ん？なんでってあのままにしてたらお前………死
んでたよ」

良「俺は殺しはしたくないんだよ、特に家族を持ってるやつはな」

か「そうか……そんな貴方になら西の座を渡せる。受け取ってくれるかい？」

良「ふ……上等……!!」

続く

現在の主

北〓トラ（名前知らん）

東〓パンダ（同じ）

南〓猫（同）

西〓高野良也

お仕置きして（前書き）

今回は煎餅の素晴しさについて語ろう（縁）

お前ってそんなに煎餅好きだっけ？（赤）

当たり前だろう！ あの硬さ、あの味、あの丸み！（縁）

おい？丸みって関係ある？（赤）

いや、特には無いな（縁）

んじゃ、なんで入れてんだよ！！（赤）

何となくさB o y（縁）

y o u g i r l？（赤）

否！ あっしは男じゃ！（縁）

長くなりそうなので本編どうぞ・・・（黄）

ちょ、おま！？（。・。）（縁）

つか誰！？（赤）

お置きして

〈東方院サイド〉

行「去らば、日本っ！……！ 僕がこの島でたくましく生きてやるかなー！……！……！」

行「……………」

すず「？ どしたの？」

行「ハアア……………、やっぱマンガやドラマの続き気になるし今月は欲しいゲームが出るし……………」

すず「そんなに落ち込まないでよ行人」

良「そうだ、たくましく生きる。さっき言った通りにしろ」

ゆ「ゆ、ゆゆゆ……！」

とんかつ「プゝ、プゝ！」

ゆつくりとんかつは勇気付けるともりなのか、二匹(?)はジャンプしていた。

行「うおう！？ 誰っ！？」

良「俺は高野 良也。お前と同じ漂流者だ」

すず「流れてきたっていうか、落ちてきたんだけどね・・・？」

良「まあ細かい事は置いとこうや。よろしく頼むぜ」

行「あ、僕は東方院 行人。よろしく願いします」

良「自己紹介はしなくていい。俺は全てを知っている」

左手を自分の左目に重ねて言う。

すず「・・・・・・・・・・」

行「・・・・・・・・・・」

ゆ「・・・・・・・・・・」

とんかつ「・・・・・・・・・・」

良「・・・・・・・・・・」

良「・・・・・・・・・・ごめん。何かごめん」

行「大丈夫だって、流れでそうなるのって偶にあるしさ・・・」

すず「元気出してよ、今日はご馳走作ってあげるから」

良「えっ？」

すず「オババに言われたの。もう一人の婿殿の面倒も見てくれて」

良「何い！？」

後ろから良也の声が聞こえた。

く東方院アウトく

「良也サイド」

現在すず宅に向け歩き中。

あのゴリラ、何時の間に！ てか何だよ会って間もない奴と同棲だと？ ふざけやがって！

ミラ『ざまあwww』

「っ!？」

行「どしたの？」

良「いや、何かふざけた野郎が笑ってるのが浮かんた・・・」

すず「?」
行「?」

良「何でもない、それよか早く行こうぜ」

まあよく考えたら野宿よりは良いだろう。……さて、そろそろか。

?「……………」

そこら辺にある小石を気づかれずに拾う。

……………ガサ。

良「Yeah Let's パーティ!!」

ガスッ!!

?「ぐえっ!?!」

音のした方に小石をブン投げる。良し、殺った！

？「つゝゝゝゝゝ、なにすんのよ！！」

バ、バカな！？ 俺の投球で死なないだ！？

すず「あれ？ あやね、どうしたの。頭にタンコブなんて作って・・
・？」

あやね「其処の殿方にやられたのよ！」

行「何で！？ 初対面なのにそんなことしたの！？」

すず「そうだよ、酷いよ！」

酷い言われようだ、俺はあいつの悪行を未然に防いでやったのに・・
・ん？

良「おい、その手に持つてるものは何だ？」

あやね「な、何のことかしら？」

良「それだ、今、後ろに隠した細長え棒みたいなやつだよ！」

あやね「見つかったなら仕方ないわ……それに用が有るのは貴方じゃなく隣の彼よ！」

ふーん、まあ、その棒の正体は分かってたし、それに俺はあんまりあやね好きじゃないから嫌われてもどうでもいい

あやね「こほん！、それではあなた、泊まる所お決まり？」

おいおい、俺との話し方がめっちゃ違うんですけど………キモイぐらいに……

行「うん、すずの家に厄介にね」

あやね「あ……、やめといた方がいいわよ……」

行「?どして?」

あやね「すずの家ってすっごいボロなの、床はぬけるは雨漏りす

るわで……。おまけにダニやねずみもわんさ……。か……」

ピシピシ……………

良也の周りの地面にヒビが入り始めた……………

良「おめえ、その言葉はすずの家を作った両親に対して失礼じゃねえのか？それにすずに対しても」

すず「！！」

良「あの家はな、すずらんさん、高虎さん、そしてすずにとって大切なところなんだ、それを冗談でも馬鹿にしゃがって……。！」

あやね「な、何よ……」

身体中に気を巡らせる。

良「ちよいと仕置きだ！　その後ですずに謝れ」

あやね「ひ、ひい!？」

良「粉碎！」

あやねの顎にアッパーを決める。

良「玉砕！」

腹に正拳突きを放つ。

良「大喝采！」

頭を掴み、すずの前に叩き込む。

行「大丈夫かあいつ？ めっちゃ唸ってるぞ」

はい、ホントは殴る直前で写輪眼を使いました。

良「うん、そろそろいいかな？少しは反省しただろ………解！
」

あやね「あ……あれ、わ……私、あの男に殴られて「おい」ヒイ！
」

良「酷い！そこまで怖がらなくてもいいじゃん！それに俺はお前

を殴ってない！」

あやね「う、嘘よ！ちゃんと殴られた感触があるもの！」

良「あゝ、メンドクサイ……それはな、『幻術』だ……この
眼のな……」

「」「！」「」

良「よし、夕飯にしよう！」

行「まだ家に着いてないし……」

良「ま……まあ、そういう時もあるさあ……それにあやね！お
前やることあんじゃねえーのか？」

あやね「う……。あんたの家とか馬鹿にしたの……その……
ごめん……」

すず「うん。許すよ……ほら帰ろ？ ご飯作らないと」

良「うんうん、素直な子は俺は好きだぞっ」(ナデナデ)

あやね「……………／／／」

良「ん？どうした？顔赤いぞっ」(ニヤニヤ)

あやね「う……………うるさい！…！」

ボカツ！！

良「痛ッ！ちょ！おま！殴らなくてもいいだろ…！」

あやね「ふん！貴方にはどうせ効かないでしょ……………／／／」

良「まあ、そうだけどね、あ、そうだ！おい！その3人に言わないといけないことあったんだ」

「「「？」「」」

良「俺……………」

西の主になつたから」

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

せまられて（前書き）

花粉の脅威に耐えながらも勤しむ小説活動。（縁）

ホントね！もうね！俺なんか薬ばっか飲んでるよ（赤）

その傍ら、こっちはPSPでポケモンのレベルアップを図っている
この自分！（縁）

チクソウ・・・（赤）

ま、頑張ろうやw（縁）

では、本編にズムイン！！（黄）

だから誰！？（赤&縁）

せまられて

無事、すず宅に到着した一行。

～主人公サイド～

良「飯、飯はまだか・・・？」

行「マズイ、そろそろヤバイ」

あやね「五月蠅いわね、ちょっと待ってなさい！」

すず「もうすぐ出来るよ」

ゆ「ゆ・・・」

とんかつ「ぷ・・・」

～数分後～

すず「出来たよ」

すずとあやねが食器が乗っている盆をもってきた。

すず「そういえば、あやねは何で此処に居るの？」

あやね「いや、その……。さっきのお詫びよ！」

すず「そっか、ありがとう」

あやねとすずが仲直りをしている中、腹ペコの奴らは……

良「美味い！ 美味すぎるぞ！」

行「止まらない！ 箸が止まらないよ、母さん！」

ゆ「ゆ、ゆ……」

とんかつ「ぷ……」

「「「ガツガツガツ!」「」」

我慢できず、暴食していた。

あやね「……………」
すず「……………」

あ・す「「よく噛んで食べなさいっ」「!」」

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

良「……す、すまん」

行「ごめんなさい……」

⌈
ϕ
•
•
•
⌋

とんかつ「ぷいぷい」

あやねとすずのツツコミ？に冷静さを取り戻した。
つかツツこむとこそこかよ……。

ミラ ㄱ
落ちて着けよ W W W
ㄱ

一先ず、お前は黙りやがれ。

ミラ . . . or z

あやね「ま・・・まあ、また今度聞くことにするわ・・・」

すず「あ、そくだ！良也、行人！お風呂入ってきたら？」

行「え！？マジ！？やつほーい！今すんげえー風呂入りたかったんだよ！」

んー、どうせ後からすずとあやねが入ってくるからなあー・・・

良「うーん、俺はまだいいや、ちよつと食後の運動してくる」

行「了解」

それから、俺とゆつくりは外に来てる・・・

良「からあげえー、ちよつと夜遅くでわりいんだけど・・・手合わせ・・・いいか？」

か「ふふふ・・・いいよ、ただし唯の手合わせではツマラナイダ

口・・・」

良「はっはぁ！いいねー？んじゃく主の座でいいだろ？」

か「いいよ、それじゃ僕がチャレンジャーってわけだね」

良「ふふ・・・掛かって来い！からあげ！」

く主人公アウトく

くすずサイドく

行人はお風呂に行ったし、良也は外で運動するって行ってたけど・・・

あやね「ねえすず、行人様も良也も居ないし、私たちも行人様と一緒ににお風呂入らない？」

あやねが誘ってきているが……

すず「ううん、私も後で入る」

良也がどんな運動してるのかちょっと気になったから……

あやね「そう？ふふふ……これで行人様と……（ぶつぶつ）

」

なんか良也たちが来てからあやねがどんどん壊れていく気がする……

それから、あやねがお風呂に入りに行つてそしたら

行「ぎゃーーーーー！！！」

行人の悲鳴が聞こえた……

私は特に心配は無いだろうと外に来たのはいいのだけど……

良「はっはー！ー！ほらほら！当たらないぞ〜？」

嘘・・・からあげが赤子のように・・・

か「ハアハア、ああー今回も僕の負けかー・・・」

良「いやいや、前の手合わせよりもスピードが上がってるぞ〜」

か「あんなに簡単に避けられてそれを言われると本当かどうか怪しくなるよ・・・」

良「ふふふ・・・もっと修行してからまたチャレンジしてみ〜」

そう言って良也は家に入っていた

すず「からあげ……」

か「ん？すず？」

すず「まさかだけど……良也ってからあげよりものすごく強い？」

か「うん……僕なんて良也の足元にも及ばないだろうよ」

新たな主……それが良也と知った時はすごく驚いた

まさか、からあげが負けるわけ無いと思ってたから

すず「それだからあげはまた良也に主の座を取り返しに行くの？」

か「うん、元主の名にかけて……ね」

そしてからあげは自分の小屋に戻っていった……

くすずアウトく

く主人公サイドく

からあげとの手合わせから戻ったら・・・

良「何してんだお前ら・・・・・・・・」

行「おい！良也！見てないで助けるよ！」

あやね「行人様く！」

いやいや、助けろって言われても・・・・・・・・

良「無理、諦めて喰われろ（性的な意味で）」

行「なんdあああああああああ！！！」

なむなむ・・・さらば行人・・・お前のことは忘れない（キラッ

行「いや死んでないから！まだ生k「行人様くく！」あああああ
あああああ・・・」

さて、屍はほつといて風呂行くか・・・

・・・

良「いい湯だな　ってか？」

はい、只今風呂入ってます

良「ふうく・・・」

ガラッ

良「？ 誰だ？」

？「誰でしょう？」

クイズか。さっき行人とあやねが入ってたから、すず、か？

良「すずだろ」

ミラ「残念、ボクだよ」

良「消え去れい！」

頭を掴み外へ投げ飛ばす。

ミラ「この野郎お——————！！！」

良「排除完了。人の入浴タイムを邪魔するからだ」

やっと一人静かに入浴でk「良也も私も入る」きなかった……

良「まったく・・・こっちは一人で入りたかったんだがな・・・」

すず「そんなこと言わないで洗いつこしよ」

はいはい分かりましたよぉ・・・はぁ・・・

良「ほれ、こっちに背中向けろい」

すず「はい」

この後、両方背中を流してから湯へ浸かりましたとさチャンチャン

おまけ：良也の魔眼修行

良「ん？写輪眼の他にいろいろ有るけどやってみるか

「白眼」

うお！キモッ！視界すべて真っ白！

良し次！！

「狂気の瞳」

特に特に変わりなし！次！

「邪眼」

これも特に変化なし！！次ー！」

「イノベイター？」

これとかよ・・・つぎー！」

「万華鏡写輪眼」

い、痛ッ！！！！あがががががが！！！！」

続けたい
・
・
・
・

さんさくして(前書き)

花粉症治ってキターー！(赤)

こっちは逆に首が痛くなってきた……(緑)

乙~~~~(赤)

そんな理由で、今回は「巫女さん弾幕シューティングゲーム」と「弾幕メイドさんカスリシューティングゲーム」について語ろうぞ(

キリッ (緑)

とても長くなりそうなのだが……(赤)

どないします？(緑)

身近なもので……(赤)

じゃあ、「東方」か「西方」の話かえ？(緑)

もつと分からん！！(赤)

ガンプラにしる(黄)

やはりBB戦士とかSDガンダムが良いな(緑)

俺は40近く持ってるぜー(赤)

ふむ……。良也にトランザムでも……。 (緑)

島壊す気か(赤)

では本編へ(緑)

それ俺のセリフ……！(黄)

ズーム(緑)

ズームイン (紫)

だ……。誰だ……！！！！(赤&黄&緑)

さんさくして

く朝く

すず「んー、いい朝」

とんかつ「ぷくく」
ゆつくり「ゆくく」

すず「おはよう、とんかつ、ゆつくり、良也とあやねは……
あれ？もう起きたのかな？」

すず「ほら行人も起きない！今日は良也と一緒に島を案内してあ
……」

はずれ．．．．

すず「．．．あれ？」

く主人公（ちよつと東方院）サイドく

チュンチュン．．．．

行「んくく？」

ズルズル．．．

行「なんだ？このズルズルって．．．．」
ズルズル．．．．

ドドドドドド!!

行「……っておわああっ!?なんだなんだ!?!」

あやね「あら。お目覚めになって?」

行「あぢ、あぢ、背中が——!!」(ロープでダチヨウ(紋次郎)に引っ張られている)

ズルズル……

あやね「私が島をご案内いたしますわ。すぐに行人様を任せとくのも心配でして……ウフフ」

行「んなこたい——から止めやがれ!——!!」

良「了解」

ガシッ……

あやね「え？」

良「あやね、一回頭冷やして来い、それと紋次郎・・・・・・・・すまん」

紋「くえ！？（え！？）」

行「????」

良「行つて来いや――!!!!!!」

良也は紋次郎を掴み、そのまま海の方へ・・・・・・・・

さらば紋次郎……君の事は忘れない……

ん？あやねと行人？

んな奴知るか。

ミラ「りょーや」

良「お前もLet's go!」

ミラ「呪ってやる!……」

ったく、ドコから湧き出て来るんだか……

？「ありゃゝ、ダンナすげえなゝ」

良「ん？りんか？」

りん「ありゃ、ダンナはよくあたいだって分かったな？」

良「ああ、この島で『あたい』って呼ぶ奴は限られてるからなゝ」

りん「へえゝ、んで名前は何で？」

良「昨日、大半の村人の名前はすずから聞いた、すずによると君は……言っているのかな？」

りん「なんだい、もったいぶってないで言ってくれよ」

すず「え〜と、『ドジッ』で何時も身体のどこかには包帯を巻いてるからすぐ分かる』って言ってた・・・うお!」

りん「ふふふ・・・すずのヤロウ・・・適当なこと言いやがって・・・」(本当にドジです)

良「んで、俺に何か用？」

りん「え？あ！え〜と、その、今日、あたいと・・・・・・・・／／／」

良「？」

ガサガサ・・・・・・・・

？「うばーーーーっ」

良「ん？今度はゆきのか？」

ゆきの「あたり〜、良く分かったね〜」

良「ああ、それは……………」

青年説明中……………

ゆきの「へえー、ふふふ……………」

ゆきの「もさっきのりんと同じになっちまったよ……………まあいいか」

ゆきの「それよりもりんちゃん！独り占めして何企んでるのかな、かな？」

ぬお！？まさか……………この子……………あのヤンデレっ子だということか！？

りん「な！な！なにも企んでねえーよ！ただ……………その……………一緒に島を

案内しようかと・・・・・・・・ぶつぶつ・・・」

良「なあゝ、俺行つていいか？」

ゆきの「だめ！あ！そうだ、これからゆきのと『でえと』しない？」

なんか誘われた・・・・・・・・だけど

ポン

ゆきの「ふえ？」

良「ごめんなあゝ、これから少し用事があんだ、今度いっぱい遊んでやつから」

ナデナデ

ゆきの「う・・・・・・・・うん・・・・・・・・／＼／」

く主人公アウトく

くゆきのサイドく

なんかとっても温かい人だったな

りん「ぶつぶつ……」

まだりんちゃんは何か言ってるし……

クシャ……

まださつき撫でられた暖かさが残ってる……

ゆきの「ん……！決めた！絶対さつきの人ゆきのの物にする！行こう！くまくま！」

くまくま「ぐるる」

くゆきのアウトく

く主人公サイドく

それにしても………

良「やっぱりこうゆう視線は慣れないな」

皆さんは体験したことがあるだろうか

例えるなら、町を歩いていて歩行者が全員こっちを怖い目で見てるんですよ

もう一度言います

『怖い目で』です

俺は耐えれないとです・・・ガクブルガクブル・・・

？「あの〜」

良「ん？なんですか？」

？「いえ、なんだか困っていらっしやるようだったので」

良「いや、大丈夫だ、問題ない」

ちかげ「そうですか、あ、私はちかげといいます。よろしくね」

良「俺は高野良也だ、それと・・・話し方戻したほうがいいぞ？」

ちかげ「ッ！・・・いつから分かっていたのですの？」

良「最初っから、話し方に違和感があんだよ」

ちかげ「ばれてしまっでは仕方ないですの、こうなったら実力行使

で・・・」

確かこの辺でまちが吹き矢で・・・

スッ・・・・・・・・ヒュッ！

キタッ！

良「ほいっとな」

プス・・・・・・・・

ちかげ「あう・・・・・・・・クカ~~~~」

良「ナイス、まち」

まち「私の吹き矢かわした……」

良「ん？ああ、その程度の吹き矢をかわせないようじゃ、主はやっていけないからね。」

まち「ツ……貴方が新しい西の主……」

良也「うん、俺は高野良也、俺を倒すのに東西南北の主集めても絶対勝てないよ」

まち「からあげ様が敗れたと聞いた時は驚いたけど……貴方を見てるとしょうがないと思えないわ」

良「そう？まあいいや、俺はこれからゴリ「ゲフンゲフン！」、オババのところに行かなくちゃいけないから」

まち「そう、ふふふ、それじゃ、後で手合わせなんてどう？」

良「いいぞ、すずの家でな」

まち「わかったわ」

そして、俺はゴリラのどこに向かった・・・

おまけ：良也の手持ち道具（バック内）

良「え」と、何あつけ？

・アクエリ

・遊戯王

・夢喰いメリー（単行本）

・P C

・ゲームパッド

・ガンпра

・ガンпра用道具

・ティッシュ(scottle)

・エアガン

なんでこんなばっかしが入ってないんだ？それにガンブラって・・・
「」

続けれるかな？

おいかけられて（前編）（前書き）

今回は時間が無い！（赤）
すいません（縁）

なんて言うと思ったか——！！！！（赤）
言うと思った（縁）
ですよー（赤）
強制的に前書きを終了させるか（縁）
ふふふ、本編へようこそ……（黄）

おいかけられて（前編）

「主人公サイド」

良「とまあ、途中で襲われたが無事到着と……」

オ「婿殿、誰に話しておるのじゃ？」

良「考えるのではなく、感じるのです……」

ミラ「早速壊れん」

良「イケ○ンラリ○ット！」

ミラ「ゴブツ」

オ「どうしたのじゃ、いきなり腕を振りおつて!？」

良「気にするな」

倒れているガキ（神）を投げ飛ばす。

良「で、そろそろするのか？ 鬼ごっこ」

オ「何故それを！？」

良「ここ最近村の人達の視線が変だったからな。…やるのか、どうなんだ？」

オ「流石、主のことだけあるの」

良「褒めても何も出ないぞ」

オ「まあまあ。そうじゃな、そろそろ始めようかの」

とオババが立つ。それにならって良也も立つ。

オ「スタート地点は村じゃ。ワシは先に行っておるから。すずともう一人の婿殿を呼んできておくれ」

良「了解した」

オババと別れ、すずを呼びに家に戻る。

「数分後」

「すず「今から皆集まって何するのかな？」」

何も知らないすずとスタート地点へ到着する。

オ「おや、もう一人の婿殿は何処じゃ？」

其処には行人を探すオババと、

村人たち「「「……………」」」

黒いオーラが滲み出て、戦闘態勢の狂戦士（村人たち）がいた。

良「……………」

凄い、迫力を俺は感じている！？

すず「何で皆そんなに怖いのか…？」

状況を読み込めないすずは一人戸惑っている。

オ「して、もう一人の婿殿は？」

良「あいつは途中参加だ」

すず「ねえ、参加って何に？」

オ「そうか。なら始めるかの」

オババはすずを置いてけぼりにして、宣言した。

オ「これより、第1回婿殿争奪戦を開始する!!」

狂戦士（村人たち）「うおおおお!!」

村の人たちもヒートアップ!

すず「何々!? どういう事!？」

良「どうやら俺と行人をお前ら全員で捕まえるらしい」

オ「ルールは簡単。逃げる嬖殿2人を今夜、一番星がでるまでに捕まえるのじゃ。捕まえた者には賞品として捕まえた嬖殿を貰えるぞい！」

狂戦士（村人たち）「「「イエーイー！！」」」

コレは…ある種のホラーだな。

オ「尚、嬖殿は先に逃げる事が許される。鬼は100秒待ってからのスタートじゃ。それと嬖殿」

良「どした？」

オ「村人たちに対して、攻撃は禁止じゃ」

良「了解」

目の前で人が爆散するのは見たくない。

オ「カウントダウンを開始するぞ」

始まる前にストレッチをする。別に数は数えないぞ？

オ「スタート!!」

開始直後に身体能力を強化。殆ど飛んでるように走る。

良「しゃあ!!」

こうして狂戦士対2人の鬼ごっこが開始した。

「東方院サイド」

只今、僕こと東方院行人は……………

海に浮かんでいます……………

良「説明後！今は逃げるぜ！」

行「はあ！？」

恐怖のゲームが始まっていることを・・・

「東方院アウト」

「主人公サイド」

と、今は行人を回収して森の中に身を隠して行人にこのゲームの説明をしている

良「このゲームのルールはカクカクシカジカだ！」

行「なに胸張って言ってんだ！威張るほどのことじゃねーよ！これ！」

良「まあ、そうなんだけど。んじゃ、説明したからがんばってねー?。」

行「え?ちょっとまって!これって良也もやってんだよね!?。」

良「そうだよ、つか、さっき説明したじゃん」

行「そうか・・・じゃ」「断る」まだ言ってな!..!。」

良「どうせお前のことなんだから一緒に逃げようとか言っただろ?。」

行「うつ・・・そうだよ!悪いか!。」

良「俺はパス、一人の方が良いしそれに自由きくし」

行「そ・・・そんな・・・。」

良「それじゃーバイバイ」

行「え?。」

良「行ってこいや――――！！」

シュバツ！！！！

行「またかこの野郎――――！！」

行人が一瞬にして消えていった。

良「こっちも行くか」

・ ・ ・ ・ ・

良「お？あれはりんじゃん、暇つぶしに追いかけてこ（弄り）でもしてみつか……りん！」

りん「あ！ダンナじゃん！」

良「こつちおいで……」

りん「う……うん……（やった！これでダンナとあたいは……
……／／／）」

良「なんていうと思ったか……！」

りん「な！」

良「ほら！捕まえてみやがれ！」

りん「だ・・・ダンナ！絶対捕まえてやる！」

ははは！絶対無理だけどな！！！！

く主人公アウトく

くすずサイドく

私は森の中を駆けていた。

すず「はあ、はあ」

オババに事情を聞いた途端走っていた。

すず「何で・・・？」

分からない。けど、こんな決め方は間違ってる・・・！

すず「ごめんね、皆・・・」

足音のする方へ駆ける。

くすずアウトく

く東方院サイドく

「また投げられた・・・」

奇跡的に枝に引っ掛かり助かった。

行「さっきの話が本当なら僕も危ないんじゃない?」

なんて考えていると、

村人A「あ、見つけた!」

早速第一村人に発見された。

行「マズイ!」

全力で走る……が、

村人A「逃がさない!」

行「何でそんなに速いんだよ!?!」

一向に差が開かない。逆に縮まっている。

村人A「待て待て!!」

村人B「逃げるな!!」

村人E「ヒヒヒヒひ!!」

行「冗談じゃないっ!!」

待てと言われて待つ奴はいない。それに一人怖い人がいたような気がする。

行「絶対、逃げ切ってみせる!!」

行人も森の中を駆ける。

↓ 東方院アウト ↓

↓ 主人公サイド ↓

良「迷ったな・・・」

只今絶賛迷い中の良也。

良「りん、はどっか行っただか・・・？」

で、此処は何処だ？何か草が大量に生えてて木も多いな。

良「ふゝ・・・。どうすっかな？」

？「の？」

良「おう？」

なんだ・・・パンダ？まさか・・・あの、パンダなのか！？

良「主のパンダか！？」

パンダ「の〜〜〜！！！」

いきなりパンダは攻撃してきた！

良「何すんだこの野郎！！！」

繰り返されたパンチを避け、懐に入る。

良「八卦二掌！」

二回叩きつける。

パンダ「のん！？」

良「四掌！ 八掌！ 十六掌！」

四回、八回、十六回と増えていく。

パンダ「のののののん！？」

良「三十二掌！ 最後だ、六十四掌！」

パンダ「のああん！？」

最後の一撃で飛び、動かなくなった。

おいかけられて（後編）（前書き）

長く更新が止まっていた気がする（赤）

仕方ない、眠いんだ・・・（緑）

だからなんだ！！（赤）

だから、今回は頑張ろうかと・・・（緑）

そうかそうか、それはいい心がけだね（神）

幻想殺し（イマジン・ブレイカー）！！（緑）

ああ～～・・・（神）

なんだったんだ、あのロリ神・・・（赤）

気にしないで本編へGO！！（緑）

また台詞取られた・・・（黄）

おいかけられて（後編）

（主人公サイド）

良「まったくこのパンダはやっぱりウザいな」

『パンダ』こと『ぱんたろう』に例の技を放ったらぱんたろうは・・・

ぱん「・・・・・・・・・・」（ビクッ、ビクッ）

良「どうすつかな、一応こいつ東の主だから食ってはダメだよな・・・」

ミラ「パンダは喰えないよ・・・」

良「いいところに来たな。このパンダの処理は頼んだぞ、そんじゃ」

ミラ「ちょ、ボク神なんですけど?!」

良「できるだろ。頑張れ」

ミラ「……………行っちゃったよ」

ミラとパンダを置き去りにして退散する。

良「さて、ここどこだ？」

はい、また迷子です…………

良「はあ、なんだか自分が方向音痴だということに鬱になりそうだ…………」

ズンズン…………

良「ん？この気は…………」

ズンズンズンズン・・・

良「はぁ・・・またパンダかよ」

それもさっきの奴だし・・・ミラの野郎、処理適当にしやがったな・・・

ズシン！！

ぱん「のー！：！：！：！：！（さっきはよくもやってくれたのん！：！）」

あぁー！：：：：：

良「うぜえ！……！！」

俺はパンダの頭めがけて飛び……そして

良「うりゃ！……！！」

ドゴン！……！！

そのまま地面へ叩きつける！……！！

ぱん「のー！！」

良「るっせえ！……！！」

ドガン！！

ぱん「のん！！」

良「まだまだ！……！！」

ドガン！ドコン！ドバン！

ぱん「の・・・のん・・・」

良「そして最後に犬神家！！！！！！」

ズガン！！！！

良「やっぱりあっけなかったな・・・」

ズバキバキバキッ、ズドツ！！

行「痛っ！」

おうおう、原作通りに東の森に来ましたねえ

行「ん？あれ？何でこんなところにいんだよ良也！」

良「ん？なんでって逃げんのメンドイから」

行「そんな理由でこんな気持ち悪いところに・・・」

行人は犬神家をしている大型の白黒を見て絶句している。

良「あまり見るな」

行「お、おう。それじゃー行こっぜ」

良「は？何処に？」

行「もう一番星出てるぞ？」

ありゃほんとだ、まあ戻るか

良「まあ、そうだな。うしー！村に戻るか！」

こうして、俺らの恐怖？の鬼ごっこは終わった・・・

おいかけられて（後編）（後書き）

短いのは学校で書く時間が無かったからです・・・

たたかって（前書き）

やはり読み直して楽しいね（緑）

お前はよく1巻から読み直せるな？（赤）

楽しいから問題ない（緑）

そうか、そういうえばゴールデンウィークの宿題はやったのか？（赤）

やって……無い（緑）

なにが『だ！殺れよ！！』（赤）

何を？課題か？出した先生をか？w（緑）

ず○ろw w w w w（分かる奴には分かる）（赤）

ま、それよか藍蘭島の伽羅で誰が良い？（緑）

やっぱ『まち』か『すず』じゃね？（赤）

自分はやはり『とんかつ』か『ばな子さん』かな？w w w（緑）

なんとも絶妙なところを突いてきたな（赤）

冗談や冗談w w w本当は『しのぶ』と『曾御祖母さん』かな（キリ

ッ）（緑）

『しのぶ』はいい、だが！『曾御祖母さん』はなくね？（赤）

だが自分は良い。ところで、皆さんは誰が好きですが……？（

緑）

アンケートです（赤）

特に意味は無いですけどね？妖○は自分のですがw w wではそろそ

ろ（緑）

やっと自分に出番が！！では、本編へズームイン！！！（黄）

楽しんでください（朱）

風○幽○は俺の嫁……！（神）

たたかって

く鬼ごっこ終了の翌日く

良「おはよう！　良い天気だな！」

行「朝の出来事が無きやもつと喜べたよ・・・」

良「そうだろうな」

原作通り進んでいるため、どうなったのか想像して下さい。

良「ほれ、顔洗いに行くぞ」

行「へーい」

く少年洗顔中く

すず「ご飯出来たよ」

良「おう、今日も美味そうだな」

行「そうだね。じゃあ早速、」

「」「頂きます!!」「」「」

とんかつ「ぷ」

ゆっくり「ゆ」

少年少女食事中

良「で、今日は何をするんだ？」

すず「村に行って皆のお手伝い」

行「僕はそれの手伝い」

良「俺は・・・暇だな」

行「仕事しろ・・・」

良「分かったよ、探してくる」

良也、ゆっくり退場。

すず「じゃあ私たちも行こうか」

行「そうだね」

すず、行人、とんかつ退場。

ミラ「とうとう無視された・・・」

く主人公サイドく

良「と言ってもすぐ見つからずか・・・」

？「なら、私の相手を頼もつかしら？」

良「ん？まちか？」

まち「ええ。鬼ごっこで見てたけど、まさか東の主に勝つなんて思わなかったわ。」

良「まあ、ちつと教育（暴力）が必要だったからな。んで？まちは俺に何か用か？」

まち「前に約束していたじゃない、私と手合わせしてくれるって」

良「あゝ、したな、そういえば。」

まち「貴方、絶対忘れてたでしょ……」

良「まあ別に構わないが、怪我の保障は無いぞ？」

まち「もちろん大丈夫よ、もとよりその気」

良「そうか、んじゃゝ、場所でも変えるか？」

まち「ええ、それじゃ私の家の道場を使いませよ」

良「OK」

＼青年、少女移動中＼

まち「さて、さっそく始めましょう」

良「ああ、一応言っとくが初めから本気で来ないと

「瞬だぜ？」

まち「ッ！？……（ホントに本気でいかないと此方がやられるわ！）はあ！」

まちが良也に一瞬で近づき、背負い投げをしようとしたが……

〕数時間後〕

まち「ハア、ハア、ハア、ハア」

良「さて、そろそろ飽きてきたし、終わりにすつか」

まち「え？」

良「それでも西の主だからな、負けられないわけよ。手合わせでもな」

良「良く見とけ、これが俺の本気だ……」

～主人公アウト～

～まちサイド～

そこからは地獄だった

私たち巫女は魔や悪霊などといった類には耐性があるはずなのだが
良也の前では無意味だった

良「写輪眼」

良也の眼が真っ赤に染まる

その眼を見たとき、私は良也に恐怖した

初めは興味本位だった、この島に来た男がどのような方なのかという誰でもある興味。

だが、その興味がもつと強くなったことが起きた

（西の主が変わった）

これだった、私の興味が強くなったのは。

だから、私は挑戦してみたくなったその新たな主に。

でもそれは間違いだった、触れてはいけなかったのだ。

良「んじゃな、まち」

その声に私は意識が途切れた・
・
・
・
・
・

おまけ、その頃のすず達

すず「今日はありがとうね行人。」
「

行「いや、僕なんてほとんど邪魔だった気がしたけどね」

すず「ううん、邪魔じゃなかったよ？ホントに助かったんだから」

行「そ、そうかな？」

すず「うん！あ、そうだ帰りにこの大根あやねのお家に持っていかないといけないから」

行「おう！それじゃいこうぜ」

（少年、少女移動中）

行「ハア、ハア、ど．．．どんだけ長かったんだこの石段は．．．．
．
」

すず「行人は始めてだから大変だったでしょ？そこで待ってて私が持っていくから」

行「ありがとう、すず」

ドン！ダン！ダダン！

行「ん？なんだこの音？こっちか？」

行「この中からか……失礼しま……す……」

？「くっ！はぁ……！」

弟子入りして（前書き）

何か久しぶりに更新になったな（赤）

全くやね……。しかも大会中の宿泊先での更新……。 （緑）

本当ね、最近忙しくて大変。前の更新からすんごく日にちが空いてしまったことを読者の皆様にここでお詫び申し上げるでござる（赤）
団体戦負けました！（キリッ（緑）

ダアーーーーooooooooorz（赤）

オーアールゼットさんが居るよ。大丈夫、来年リベンゾだ！（緑）

まあ、今は深夜の約0時である（赤）

深夜とは人の頭を混乱させる時間帯だな……。まあ気にせず（緑）

本編にレッツ、アクセス！（黄）

弟子入りして

まち「……………」

良「ありやりや、やつぱり気絶したか。まあ、そこら辺の人間がこれに耐えられるわけ無いしな」

良也がそう言っていると……

行「お、おい、良也？な、何やってるんだよ！？」

おっと、ここで行人の登場か！

良「ん？おう、行人じゃねえーか、いやなにまちに稽古頼まれたからな。それがこの稽古」

行「稽古って、ちょっとやりすぎじゃねーのか！？」

良「いや、この位して普通だろ、それにこれ位やらないと強くなんねえし」

まち「ん……ん？」

良「お、ちょうどまちが起きたな。おい大丈夫か？」

まち「え、ええ、大丈夫よ。でも、ちょっと精神的にきてるわ……」

良「そうりゃーそうだろうな、幻術かけたんだし」

行「げ、幻術！？そんなのがこの時代にもあるのかよ！？」

「主人公アウト」

「東方院サイド」

まさか、この時代に幻術があるとは僕は思わなかった。

だってそうだろ！？今の時代、そんなのはお話の中での話。

有るといっても催眠術的なものしかない。

そんなものを言おうものなら、周りは白い目で見ってくるか、『何コレイツ言ってるんだ』みたいな風に見てくる。

でも、そんなものが今僕の目にある。

やはり好奇心と言うのは抑えきれないものだ。

だから僕は言った。

行「なあ、良也、俺に幻術懸けてみてくれないか？」

その後、僕は後悔した・・・

～東方院アウト～

「主人公サイド」

行「なあ、良也、俺に幻術懸けてみてくれないか？」

は？何コイツ言ってるの？馬鹿なの？死ぬの？

良「いや、やめとけて」

行「いや大丈夫だ！僕なら大丈夫な気がする！！」

良「いやいや、お前は絶対これに耐えれないから」

この言葉を言ったとき

ブッン

行人の方から何かが切れる音？が聞こえた

行「この世界に！絶対という！言葉はなーーーーい！！！」

良「うお！？」

あゝ、そういえばコイツ『無理』とか『絶対』とか言われると燃え上がる奴だったな………メンド………

良「あー！、わーったわーった！かければいいんだろ！かければ！」

行「よっしゃー！！！」

良「ただし！一つだけ言うぞ」

行「ん？なんだ？」

良「死ぬなよ？」

↓主人公アウト↓

↓東方院サイド↓

行「（・・・真っ暗なんだな。それに動けない・・・）」

良「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

行「（良也が沢山いるな・・・）」

良「……………行くぞ……………」

行「（っ！？）」

良「ていていていていていていていていていていてっ！っ！」

行人の体中に拳が叩き込まれ、激痛が走る。

行「（うぐっ……………！？ あがぁ……………」

そして、行人の意識が落ちた……………。

〈東方院アウト〉

〈主人公サイド〉

良「ま、こんなもんだろ。どうだった？」

行「うぐっ……………。正直キツかった」

良「だから言っただろ？ お前には耐えられん」

行「耐えられなかった。けど、今度は耐えてみせるさ」

良「無理だろうが、頑張れ。精神崩壊させてやる……徹底的にな……」

そして俺はここで始めて万華鏡写輪眼を発動させた……

行「……………（ビクッ！）」

良「んじゃ、まち！後のことはよろしく」

そして俺は道場を去った……

～主人公アウト～

～行人サイド～

行「な……なんだったんだ？あの良也の眼は！？」

まち「さあ？私の時はあれとは違うものだったと思ったけど・・・」

そして、僕はここで思った

行「（なんだか、今の僕って何にもできないただの少年って感じだな～・・・）」

家では道場で叔父の稽古を受けてて結構強いと思ってたけど・・・

行「（ここじゃ、そんな力はちつとも・・・ていうか殆ど役立たずになってる・・・）」

行「（だめだ・・・こんなじゃ！でもどうすれば？・・・」

そこでまた僕は思いついた！

行「（そうだ！すぐに聞いてこの島一番強い（良也以外）に弟子入りを頼んでみよう！！）」

まち「で？貴方は誰？」

行「あゝ、自己紹介がまだだったな僕は・・・」

キングクリムゾン!!!!!!

行「・・・で、この島で一番強い、あ、良也以外で強い奴って誰が居るんだ??」

すず「んゝ（言って良いのかな?からあげからは言わないように言われてるけど・・・ま、いつか）」

すず「えーと、良也以外だったからあげかな?」

行「え?からあげってすずの家で飼ってる（住んでる）鶏のこと」

すず「うん、あれでも元は西の主だったからね」

行「ええー!!!!!あんなんで!?それも主!?!」

すず「うん、それにしても行人はなんで強い人を探してるの??」

行「ん?あゝ、なんだか今日良也とまちの稽古見てたら今自分がつても惨めに思えてきてさ、それでその強い奴に弟子入りしようかと」

すず「へえゝ、頑張ってね行人」

行「おう!」

その後、行人はからあげのトコへ行き、弟子入りを頼んだが条件を出され内容が

『君が僕に一回でも攻撃を入れれば合格にするよ』

このとき僕は、なんだとしても簡単じゃないか！、と思ってた。

だが、その後僕は後悔した……

く東方院アウトく

く主人公サイドく

まちの家から出てきたが、正直に言おう・・・。

良「暇だーーーー！！！」

頑張ったよ、パト○シユ・・・

死にかけて（前書き）

テスト週間終了了！！（緑）

そして早速次の日から返されたぜ・・・（赤）

まあ、いまのところ赤点はないから良いが・・・（緑）

そうだな・・・国語がヤバイが（赤）

電気がヤヴァい・・・（緑）

まあ、俺たちのテスト話をしてみなさんは楽しくないだろうから他の話題に変えないか？（赤）

少年エース（A）について語ろうか？（緑）

やっぱ、東京レイヴンズじゃね？（赤）

ケロロ軍曹だろう？（緑）

いやいや、狐の悪魔と黒い魔導書だ！（黄）

それは否めない！（赤・緑）

本編ゴウ（ターミネーター）

死にかけて

「主人公サイド」

良「暇でしゃあない・・・」

ミラ「呼ばれて飛び出てジャジャジャーン!!」

<ミラが現れた!!

良「いきなり出てくんじゃねえ!」

<ミス。ダメージは与えられなかった。
<ミス。ダメージは与えられなかった。
<ミス。ダメージは与えられなかった。

ミラ「無駄無駄無駄あ!」

<ミラは高笑いをしている。

良「これでしまいだ！」

<良也はスペル『直死の魔眼』を使った。

ミラ「なんですとお！？」

<999のダメージ！！

良「どうよ！」

ミラ「神だから死なないんだけどね」

原作では死にますww

ミラ「てか暇だから来てあげたのに殺すなんて」

良「いきなり出てくるから悪い」

ミラ「酷いわ……。まあ気にしないで、暇ならからあげの所に行
って見たらどう?。」

良「からあげの所?。」

ミラ「そう。暇つぶしにはなるかもよ。」

良「じゃあ行ってみるか。」

く主人公サイドく

く行人サイドく

行「はあ……。はあ……。はあ……。」

悔ってた……。まさか、一撃を与えるだけがこんなに難しいなんて。
……

からあげ「ほらほら、どうしたの行人君？まさかこれしきで疲れたなんて言わないよね？」

これしきって・・・からあげさんただけ理不尽な体力してんだよ・・・

ガクッ！

脚の負担が限界にきたらしく膝を付いた

からあげ「はあ・・・まさかこの程度だったとは予想以上に酷い・・・君」

その瞬間、からあげさんの雰囲気が変わり

からあげ「ナメてんのか？」

行「え？」

からあげ「弟子入りしてくるんだから少しはできるのかと思えば・・・もう、論外の域だね」

行「え？それはどういう？」

からあげ「はあ、君では僕の弟子にはなりえないって言っているんだ」

行「ッ！・・・て、言うことは」

からあげ「失格」

行「そ・・・そんな・・・」

すず「ちよつと！からあげ、それは言い過ぎじゃない！？」

からあげ「すず、僕は行人君と話してるんだ、邪魔しないでくれるか？」

その時・・・

良「おお、なんだ？面白そうなことやってるじゃないか？？」

良也が来た・・・

「東方院アウト」

「主人公サイド」

良「よ！俺も混ぜるよ」

すず「良也、今まで何処に行ってたの!？」

うお!？なんかすずがめっちゃ興奮してるみたいけど

良「いや、ちょっと馬鹿の相手してた」

すず「バカ？」

良「まあ、気にすんな。んで、行人が落ち込んでんのはどうでもいいから……からあげ!」

からあげ「ん？なんだい？？」

良「いや、ちょっと身体動かすために……殺らないか？」

からあげ「フフッ……いいね、殺ろうか」

それから俺らは距離を取って……そして……

良／＼からあげ「はあああああああ！！！！！」

拳がぶつかり合った……

く主人公アウトく

く東方院サイドく

な・・・なんだってんだよ！この理不尽な戦いは・・・

良「はああ！！」

からあげ「無駄だよ！今度はこっちからだ！！」

良也が俺の目の前から消えたかと思うとからあげさんの後ろに現れて回し蹴りを放ってきたけど、からあげさんはいとも簡単にかわしていく。そしてそこからからあげさんが良也に対して、

からあげ「飛鷄流『旋風』！！」

良也の周りを回転して下から突き上げた。

良「ふんっ」

それに対して良也は上半身を反らし、右腕でからあげさんを殴りあ

げた。

からあげ「うわっ!？」

良「そいやっさ!」

空中に上がったからあげさんに追撃を浴びせる。

良「うおらららららららあ!?!」

からあげ「くうっ!？」

良「ラストオ!!」

最後に掴んで地面に叩きつけた!

良「やるなら徹底的にな!(キリッ」

行「.....」

最後のはいらないな・・・。

く 東方院アウトく

久しぶりに書いたら疲れた・・・

死にかけて（後書き）

皆さんは（A）の中では何が良いですか？（緑）
コラッ！勝手にアンケートやんな！（赤）

お話して / 登場！でも即退場して（前書き）

今回は二本立てでお送りするぜ？（緑）

なんで疑問系なわけ？（赤）

気にするな。（緑）

なんだか今回は不穏な雰囲気があるな、本編に（赤）

そうだな。どうなることやら（緑）

んじゃ、まず今回はこんぐらいにして本編に逝こうか（赤）

そうやね。それは、本編に・・・（緑）

ゲッツ！（黄）

お話して / 登場！でも即退場して

（お話して）

↓主人公サイド↓

良「さっきの見ててどうだった？」

行「いや、一方的だった。それしか言えない・・・」

良「ドヤ？（´・・・）」

行「いや、ドヤ顔すんなよ・・・」

からあげ「（いや～、やっぱり強いね）」

良「ドヤ??（´・・・）」

からあげ「（その強さは卑怯だよ）」

良「ドヤ???」（・・）「」

からあげ「（どうやったらそんなに強くなるの?）」

良「何故突っ込んでくれない・・・?」

からあげ「（それがなんだか分からないからね）」

良「あゝ、成る程ね」

行「ていうか、何でそんなに使ったの?」

良「尺伸ばしwww」

（緑）「（助かったわwww）」 聞こえていません。

ミラ「楽しそうだね」

良「お、ミラか。最近出てくるよな」

ミラ「~~~~~」

良「何してんの？」

ミラ「いや、基本出てくると暴力振るわれてたから・・・」

良「そうだったのか？」

ミラ「酷いよね、忘れるって。。。虐待だよ？」

良「パツと見、ガキだもんな」

ミラ「まあね」

良「で、今度は何の用だ？」

ミラ「・・・気をつけて」

良「?何に?」

ミラ「この島に他の転生者が着てる」

良「え……」

ミラ「それも質が悪いことに男だよ……」

良「……そいつの外見は?」

ミラ「それは髪g」おお!! やつと見つけたぞ! すず」っ……キ
モイのが来た……」

ミラがここまで邪険にするってこた……

く主人公アウトく

俺の敵だな・・・

く????サイドく

説明よう!!俺は転生者だ!なんか邪神が暇つぶしに俺のことを殺して俺に異世界に行けと言ってきたんだ

これチャンスじゃね?と俺は思った。異世界でハーレム作るって一生幸せに暮らしてやる!

名前は有馬雄介、そして俺が選んだのは(ながされて藍蘭島)だ。

ここなら簡単にハーレムを作れると思ったからだ。

それに俺はこの作品のキャラは大半好きなキャラだったしwww

そしたら邪神がその世界にもう先に一人の転生者が居るらしい、それも男だ。

ム力つく、俺がハーレム作る世界で好き勝手に動きやがって……

こうなったら、邪神に貰ったチート能力でぼこにしてやる……

え？何の能力だって？それは……………

・身体能力最強

・固有結界（unlimited blade works）

・創造能力

だ。

これはチートじゃね？

最初はそう思ったがさっきの邪神の話を聞いてからはそんなことはどっかに吹っ飛んでしまった

まず、そんなことを頭の片隅に置きながら俺はその世界に送られた

今俺はすずの家の近くの林の中に居る……

雄介「くそ！あいつ、俺のすずにあんなにくつつきやがって!!」

自然と声が少し漏れていた

雄介「早くあいつの所からすずを助けてやらないと」

??「……そいつの外見は？」

あいつの名前は知らんがなんか独り言言つてやがる、頭おかしいんじゃないね？

まあいい、それじゃー早速助けに行くか、なるべく今来たみたい
に思わせないとな。

雄介「おお!!やっと見つけたぞ!すず」

すず「え？・・・えつと誰？」

雄介「俺は有馬雄介ってんだ、わりいけどちょっと一緒に来てくれないかな？」

すず「え・・・ごめんわたしまだやることあるから」

雄介「いいじゃんそんなことその男にでもやらしておけば」

すず「え！？でも「いいから来い！！」きゃ！ちょっと嫌！離して！！！！」

フッフ、これですずをつれてそこら辺の森の中で犯せば言うことは聞くようになるだろ

その時・・・

??「おい、待てよ」

あの男が話しかけてきた

「????アウト」

「主人公サイド」

良「おい、待てよ」

もう我慢の限界だ、絶対殺してやる……

なんか行人も怒ってるみたいだし

雄介「何だよ、邪魔すんなよ。何？ 殺されたいの？」

こういうキザっばい奴は好めない。いたって、

良「ああ、てめえを消してやんよ！」

言うなり奴の懷に飛び込む。

雄介「・・・ブツブツ」

良「余裕構えてんじゃねえよ!!」

下からアップパーを喰らわせる。

雄介「なあに、ちょっとした言葉遊びさ」

それを奴は飛んで避け、笑う。

雄介「・・・ブツブツ」

良「ならその口塞いでやんよ!!」

それを追いかけ、回し蹴りを放つ。

雄介「遅い遅いw。・・・ブツブツ」

良「しゃんなるおー!!」

着地と共に連続でパンチを放つ。

雄介「だから遅いつて」

が、全て受け止められる。

良「くそっ!」

雄介「足掻け足掻け、後二回だ」

良「あん？ 何言つてんだ？」

雄介「もう少しで分かるさ。・・・ブツブツ」

またしても奴は笑いながら呟く。

良「さっきからブツブツ言いやがって、ふざけんなっ!!」

再び雄介に飛び掛る。

雄介「もう遅いぜ・・・」

雄介「unlimited blade works!!」

良「っ!? ヤバイ!!」

良也と雄介の周りに、円形の炎が浮かび上がり包み込む。

行「うおお!!」

その中に行人も飛び込む!

すず「良也！？ 行人！？」

炎が収まると、三人は消えていた・・・。

すず「何処に、行つたの・・・？」

良「やっぱ此処に着たか。厄介な奴だな」

行「此处は何だ〜!!?」

良「お前来たのかよ!？」

行「ああ、ギリギリだったけどね!」

親指を立ててウィンクして見せた。

ミラ「厄介だね〜・・・」

良「お前も、よく入れたな・・・」

ミラ「神様だからね　ドヤ?(´・・´)」

良「しつこいぞ。そのネタ」

ミラ「(´・・´)(´・・´)にょろん」

とりあえず殴る。

ミラ「イダッ!? 何すんの!?!」

良「そんなことよりアイツは何処行つた?」

見渡す限り、大量の剣が刺さり、歯車が浮いている。

雄介「此処にいるぜ?」

奴は一番高い山の上にいた。

良「行人、気をつけろ、アイツはお前の敵う奴じゃない、後ろにいろ」

行「いや、俺も一緒に戦うぜ、この世界、絶対って言う言葉は無い。そうだろ?」

良「ふふふ、そうだったな。お前はそんな性格だったな。OK、いくぞ!!!」

俺が先に奴の懐に入り、相手の膝に足を乗せ

良「旋斧脚!!」

相手の頭めがけ蹴りをいれた、だが……

雄介「なんだい？この蹴りは？ひよろひよろじゃないか？」

ツ……まさか止められるなんて

雄介「今度はこっちの番……」

ドドドドドドドドッ!!

良「グアッ!!?」

なんつつ重い拳だ……あ、ヤベ、少し意識が朦朧としてきた

たった数発喰らっただけでこれかよ……多分、相手のチートは
身体能力だろうな

ミラ「あゝ、そろそろヤバイかな？」

良也は能力値は高いんだけど、連続はキツイよね。

ミラ「仕方ないな。・・・よつと」

ミラが指を鳴らすと身体が光だし、消えてしまった。

くミラアウトく

く主人公サイドく

あれ？此処は何処だ？

ミラ「や。キミはこのままじゃ負けるだけだよ。」

・・・認めたくないがそうだろうな。

ミラ「あれ、素直だね？」

ほっとけ。で、何する気だよ？

ミラ「そんなキミに、新しい能力を加えようと思ってね」

んで、何くわえんだよ

ミラ「虚化と幻想殺し」

・・・マジ？

ミラ「マジ」

自我は？代償は？

ミラ「大丈夫、ちゃんと保っていられるようにしとくから、それと代償はないよ・・・だから絶対勝って」

・・・あはははは！！！！！あつたりめえだ！勝つに決まってる
！！！！！！

ミラ「それじゃ、もう加えたから意識戻すよ」

おう、じゃあな・・・

良「う・・・うん・・・ハッ！アイツは何処だ！」

周りには誰もいない、すると・・・

行「うわー！！！」

行人の悲鳴が聞こえた

良「クソッ！！待ってる行人！！」

そこには今まさに行人に剣を振り下ろそうとしている奴がいた

雄介「死ねえーーーー！！！！！！」

パシッ……

俺はその剣ごと掴んだ

雄介「なっ！お……お前！死んだんじゃないのか！？」

良「こんなぐらいで死んでられっか、今度はこっちがお返しをする番だ……」

そして俺は手を額の近くに引っかく様に添え、そして上から下へ下ろした……

そして俺の顔にはあの死神の仮面．．．

雄介「な．．な．．な．．！！」

良「ここからは本気だ．．．さあ、お前の罪を数えろ．．．万華鏡写輪眼！！！」

雄介「チッ！！エクスカリバー！！！」

良「喝ッッッ！！！！」

雄介「うわあああ！！！」

良「フンッ!!」

ゴキッ!

雄介「あああああああああああ!!!!!」

腕の骨そして足の両方の骨を折った

良「お前は俺を怒らせた……だから最後は苦しみの中で殺してやる」

雄介「ま……まさか!や、やめろ!やめ」天照「ッ!!あああ
!!熱い!!アズイイ!!!!!!!!」

）数分後、無事帰還）

ミラ「キャッハー！見ろよ！粉々に砕け散りやがったぜ！！」

あー
れー
？

番外 とある幻想に介入する！！ 1

とある場所

？「何か楽しい子いないかしら？」

紫色を基準とした服を着て、つまらなそうに呟く金髪の女性は何かを覗いていた。

？「うん……」

彼女の目の前には様々な光景が映っていた。

？「あまりパツとしないわね……」

？「なら、ボクの奴を使えばいいよ」

？「っ！？」

突然の声に彼女は至極驚いた。何故なら此処には彼女しか入れない

のだから。

？「ねえ、聞いてる？」

？「え？ ああ、聞こえているわ。いきなりだったけど、『ボクの奴』を使えばいいって、どういう事？」

話しかけてきたのは小柄な子供だった。

？「そのままだよ。暇なようだから、貸してあげようかと思ってただけさ」

その子供は笑顔で答えてきた。

？「本当にいいの？」

？「いいよ　その代わり、ボクも入れて欲しいんだ」

また笑顔で言う。

？「貴方も？　でも貴方は此処にいるじゃない？」

？「いないよ。だからお願いね？」

？「？分かったわ。有り難うね？」

？「うん、いいよ」

子供はそれだけ言っていると消えていった。

？「さて、始めましょう……」

元いた場所に戻ると、其処には子豚を頭に乘せた少女と話している少年2人がいた。

？「ふふふふ。楽しみだわ」

今度は楽しそうに吹き、手を翳した。

？「ようこそ、幻想郷へ……」

くサイドアウトく

く良也サイドく

「ったく、すずはもう少し落ち着けよ……」

すず「あははく、ごめんね？　だって、大福が…うにゃ!？」

ポカツ

すず「痛いよく……」

行「だってじゃないよ、痛いんだぞ？　噛まれると…」

とんかつ「ぷく…!!」

行人の顔とんかつには幾つかの齒形が付いていた

すず「本当にごめんね？　今日はご飯頑張るから……！」

すずは両手を合わせ、謝る。

行「まあ、反省してるならいいけど」

良「そう謝ってから直ったためしがあるのか？」

行・と「……………」

すず「うう…、頑張るから……／／／」

行「はあ、ホントだよ……」

行人が脱力する。

すず「そう言えば良也は何で怪我してなの？」

行「全部避けてたからね……」

良「まあ、俺だからな……………」

話している最中に何かを感じた。

ミラ「何か出たみたいだね？」

良「ああ。何だ？」

ミラ「行ってみる？」

良「……………そうするか」

すず「？　どうしたの？」

良「ん？　ああ、ちょっと出掛けてくる。直ぐ戻るかは分からん」

行「僕も行こうか？」

良「いや、大丈夫だ。行ってくる」

ミラを連れ、家を出る。

少年移動中

良「こいつぁ、穴？」

見ると、人一人入れそうな穴が空いていた。

良「なんで岩なんかになんか？」

岩に穴を空けるのは難しい。削るにしても周りには傷が付くはず。なのに傷らしい傷は見当たらない。

良「なぁミラ、どう思っ？」

ドンッ

良「な、に？」

振り向くと、ミラがいた。いたが、何かが違った。

良「ミラ！？」

ミラ？「さあ、向こうへ行こうか……」

ミラが薄く笑う。

良「ミラ！！」

穴に落ちていく途中で意識が途絶えた……。。

番外 とある幻想に介入する！！ 2（前書き）

枝豆うめえ~~~~~（緑）

え？ 終わり？
(赤)

番外 とある幻想に介入する！！ 2

く????サイドく

?「ふうくくん。今日も暇ねく・・・」

今日も暇でしょうがない。誰か暇潰しになるような物でも持っていないかしら?
なんて考えてると、

?「よつ、霊夢。暇潰しに来たぜ!」

早速来た。

霊夢「何よ魔理沙。うちに暇潰しになるような物は無いわよ?」

魔理沙「いやあ、さっき此处に来る前に魔法の森んところから拾い物したんだぜ」

そう言うと、魔理沙は箒の後ろ?から拾った物を降ろした・・・つて、

霊夢「ねえ魔理沙？ あんた何時から人間を物扱いしてたの？」

魔理沙が降ろしたのは間違いなく「人」だった。

魔理沙「どうだ、暇潰しにならないか？ w w w」

なる筈が無い！

霊夢「その人怪我してるじゃない!？」

魔理沙「お、ホントだぜ・・・」

霊夢「気づきなさいよ！ 中に入れるわよ!」

魔理沙「了解したぜ。何か暇潰しになつたな w w」

魔理沙の言ったことは無視した。とりあえず治療ね・・・。

（霊夢アウト）

「良也サイド」

良「…………知らない天井だ」

気づいたら見知らぬ部屋に寝かされ腕や腹に包帯が巻かれていた。

良「どうしたんだ？ 怪我はあまりしない筈……。それに此処は何処だ？」

見渡すがあるのは寝ている布団と掛け軸の二つだけだった。

霊夢「あら、起きたのね。怪我は大丈夫？」

と、巫女服の少女が入ってきた。

良「えっと、誰だ？」

霊夢「私？ 私は博麗^{はくれい} 霊夢^{れいむ}。此処、博麗神社の巫女よ。貴方は？」

良「俺は高野 良也だ。此処は何処なんだ？」

霊夢「此処は幻想郷よ。知らないの？」

良「ああ、知らない。俺はミラ．．．いや、友人に落とされたんだ．．．」

ん？ 友人？ あいつは神だから友神か．．．？ まあいい。

霊夢「そう。災難だったわね．．．」

良「ああ。落とされる理由が分からん．．．」

霊夢「まあ、もう少し休んで。昼御飯の支度をしてくるわ」

と言って、部屋を出て行った。

良「じゃあもう一眠りしますかね．．．」

再び布団の中に潜ろうとした時、

？「遊ぼうぜー！！」

良「ほあ！？」

いきなり掛け布団を引き剥がされた。

良「な、何だ！？ 誰だ！？」

？「にはは、そう驚くなつて。私は霧雨きりさめ 魔理沙まりさ、魔法使いだぜ！」

と、目の前のいかにも魔法使いに見える服装の少女はハイテンションで自己紹介をしてくれた。

良「俺は高野 良也だ。宜しく、魔理沙」

魔理沙「おう、宜しく頼むぜ。早速だが良也、弾幕ごっこやろうぜ！！」

良「・・・・・・・・・・は？」

「場所変わって博麗神社の境内」

良「魔理沙、弾幕って何だ？」

魔理沙「何だ、良也。弾幕を知らないのか？」

そりゃそうだ。幻想郷に来てほんの少ししか経ってないからな！！

魔理沙「まあ言ってみれば自分の気力とか魔力とか、そういうものだ」

良「納得できねえけど!？」

魔理沙「まあやってみたら分かるさ!」

いや、断言されてもなあ・・・。

良「（とりあえずやってみるか・・・）」

掌を見、集中する。

魔理沙「お、おお！？　出来てるぜ！？」

良「え？　おお！？」

見てみると赤色と緑色の光が浮かんでいた。

良「これが弾幕か？」

魔理沙「ああ。そいつが弾幕だぜ。試しにそいつを投げてみな」

良「そいやっ！」

魔理沙「　　ひえ！？」

結構な速度で魔理沙に向かって投げた光弾は近づく毎に大きくなっていた。

魔理沙「あぶなっ!!」

ズゴーーンッ!!!

それはギリギリの所で避けた魔理沙の後ろで爆発した。

魔理沙「ひゅゝ　　おっかないな・・・」

良「というか大丈夫なのか？　林が吹っ飛んだぞ・・・？」

魔理沙「大丈夫だろ」

霊夢「ちよつと、魔理沙？　良也が居ないんだけど、まさか一緒じゃない・・・って何よこれ!？」

霊夢が無残になつた林を見て驚愕した。

魔理沙「ああ、それ良也だぜ」

良「な、魔理沙!？」

霊夢「良也、貴方がやったの？」

良「後ろに鬼が見えるぜ・・・」

魔理沙「ドンマイだぜ、良也」

霊夢「あんたもよ、魔理沙あ!!」

魔理沙「何い!？」

霊夢「夢想封印っ!!」

良・魔「ぎゃあああああっ!!!!!!!!!!」

先程の良也の光弾に劣らない爆発音が神社中に轟くのだった・・・。

番外 とある幻想に介入する！！ 3（前書き）

Q！！（緑）

はあ？（赤）

頭の中にコーラルQが出てきてな・・・つい（緑）
わけワカメ（赤）

ゴーーーー（黄）

番外 とある幻想に介入する！！ 3

く????サイドく

フヒヒヒー!!もう少しだ……もう少しで俺の……

く????サイドく

く博麗神社縁側く

霊夢「まったく、本当にどうすんのよこんなに滅茶苦茶にして……」

今、俺は霊夢（鬼？）に説教中である……はあ……

良「いや、本当にすみませんでした」

霊夢「謝るくらいならあれ、どうにかしてほしいもんだわ」

魔理沙「ホントだぜ！」

霊夢「魔理沙、貴女もよ」

おお、霊夢、あなたも良いことを言う

魔理沙「えええ……こうなったら」

ん？何するんだ？

魔理沙「……逃げるぜ!!」

良「えええ!!」

霊夢「待ちなさい!!魔理沙!!」

そのまま魔理沙は空に飛んで行こうとした

魔理沙「待てと言われて待つわけないぜ!!」

まあ、そりゃそうだな

霊夢「霊符「夢想封印」!!」

おーおー、こんなに神社が近いのによく放つな

ーコピー完了しましたー

良「ん？霊夢？何か言った？」

霊夢「え？何も言っていないわよ」「ぎゃあああああ……」「あ、落ちた」

おいおい、すげええげつないな、おい。

魔理沙「殺す気か！！」

霊夢「どうせ貴女はこれくらいでは死なないでしょ」

いやいや霊夢さん、普通の人はいくらでも死にます

魔理沙「ムムム！！こうなったら弾幕勝負だぜ！」

霊夢「弾幕で説教してやるわ！」

良「おいおい、止めるよ……」

慌てて仲裁に入る。

霊夢「何よ、邪魔するならあんたからやってあげるわよ・・・？」

良「はあ！？」

魔理沙「いいぜ、やってやれよww」

良「魔理沙、またお前そうやって！」

魔理沙を捕まえようとするが逃げれてしまい、逆に霊夢に捕まってしまった。

良「霊夢！？」

霊夢「表、出るや」

この時の霊夢は満面の笑み（青筋が浮かんでいる）だった。

く博麗神社境内く

霊夢「弹幕ごっこだけど、スペルカード戦でもあるかね」

良「スペルカード・・・？」

聞いたことの無い物だ。

霊夢「そうか、まだ知らないのか。スペルカードって言うのは所謂その人の必殺技みたいな物よ」

良「必殺技だと！？　どんなだ？」

霊夢「これよ」

と見せられたのは、何も書かれていない只の『白紙』だった。

良「おい、これって只の紙じゃねえか・・・」

霊夢「これはまだ何のイメージも無いからよ。これを使つには手に

持ってイメージすれば良いわ」

霊夢から3枚の白紙が渡された。

霊夢「はら、これを持ってイメージしなさい」

良「イメージかぁ・・・」

何となく先程の夢想封印とやらを想い浮かべた。

良「・・・ん？ 擬似「夢想封印」・・・？」

霊夢「出来たの？ なら早速やりましょうか」

良「ちょ、ちょっと待て！ どうやれば使えるんだ!？」

霊夢「簡単なことよ。その名前を言えば良いのよ。・・・」
さて、お仕置きタイムスタート!!」

あれ？ 何時の間に仕置きになってんだ？

霊夢「先手必勝！ 霊符「夢想妙珠」！」

霊夢がスペカを発動すると、周りに様々な色の弾幕が出現し此方に飛んできた。

良「いきなり使ってくるのかよっ・・・！」

俺はさっきスペカではなく別のスペカを速攻で考えた

まあ、パクリなんだけどね、読んでてよかったガッ○ユベル！！！！

良「偽符「ラシルド」！！！」

そう言い、拳で地面を殴るところから黄色の弾幕が壁の形を形成していった

霊夢「！へえ・・・中々の防御力ね・・・でも」

限界って知ってる？・・・

そう言った瞬間、ラシルドにヒビが入っていた

良「ああ、知ってる。だけど、時間稼ぎにはなった・・・なあ？」

霊夢「!?!」

声がしたのは霊夢がスペカを放った方ではなく……

良「ゼロ距離で喰らったらどうかな?」

自分の後ろだった……

霊夢「させない!! 霊符「夢想封印」!!」

良「はっはあ!! 擬似「夢想封印」!!」

霊夢「え!?!」

驚くだろうな、そりゃあ。パクリだもん。

霊夢からは色々な色の球?が飛んでいき、俺から真つ黒の球?が飛んでいった

霊夢「(う・・嘘!?! 押され始めてるっ!!)(くっくう!!)」

良「まだまだいくぜ！！多重スペル！！」

霊夢「え！？」

良「偽炎「終焉の炎」！、偽剣「約束された勝利の剣」！！」

左手から赤い弾幕が出て右手に細長い剣が構成されていく

良「約束された（エクス）・・・勝利の剣カリバー！！！！」

.....

霊夢「痛つつ・・・」

良「やったぜ！」

霊夢「ううゝ、卑怯よ！」

良「何で？」

霊夢「あんたにあげたのは3枚のはずよ？ 何で増えてるのよ！」

良「そいつはあれだ、俺の能力だ」

霊夢「あんたの能力？」

良「ああ。俺の能力は『コピー能力』だぜ！！」

霊夢「コピー？」

良「まあ見たものを複製できるんだ。だからスペルカードも増やせたんだ」

霊夢「ふうん。．．．それってルール違反じゃない？」

良「ルール違反？　はっ、良いか霊夢。ルールってのはな．．．

破るためにあるんだっ！！！」

プチッ

霊夢「知るかなもん~~~~~！！！！」

こうして夜は明けていく・・・

番外 とある幻想に介入する！！ 4（前書き）

宿題がメンドイ！！！（赤）

宿題が終わらない？ イオシ○じゃないんだからww（緑）

・・・そっちはどうなんだよ？進行状況！（赤）

後二つだ。（緑）

俺一つ（赤）

にしても、感想文って書く必要あんのかね？（緑）

絶対、先生適当に見てから返してくるよな（赤）

多分な。そろそろ本編かえ？（緑）

んだなゝんじやゝ本編に（ちよつと待った）んだよ？なんだ黄か（赤）

それ僕の台詞だから、それじゃゝ本編にGOゝゝ（黄）

番外 とある幻想に介入する！！ 4

良也達が博麗神社でドンパチやっている頃……

〳〵とある山の洞窟〳〵

〵村の子供〵

子供A「あれ？これなんだろう？」

そこには墓石に縄が何重にも巻かれている墓があつた。そこに3人の影がある。

子供B「なあ〵、これ取ってみなえか？？」

何処にでも居そうな悪餓鬼が言ってきた

子供C「え〵、やめようよ！何かに祟られるかもよ！」

子供B「何言つてんだよ！祟りなんて迷信だろうが！」

（この頃の時代はもう祟りなどは迷信扱いでしたゝまる）

子供C「そ、そうだけど・・・」

子供B「お前は怖がりすぎなんだよ」

子供A「僕もそれはやめた方が良くと思っただけど・・・」

子供B「ッ！・・・もういい！！俺一人でコイツの縄解いてやる！」

子供A「ちょ！やめなつて！！」

そっつい、AはBを押さえたが

子供B「H A N A S E！！」

Bが暴れだし足でその墓石を倒してしまった・・・

ここに3人の命が消えた……

「場所変わって、博麗神社」

良也は一人、境内の掃除をしていた。

霊夢「ちょっと、ちゃんとやってる？」

良「へいへい、やってるよ」

霊夢「ふうん。さっきと同じ場所しかやってないように見えるけど

「？」

良「それはお前がついさっき来たからだろうが」

霊夢「ま、いいわ。終わったら休んで良いから」

良「了解、早急に終わらせる」

「良也、スピードアップ」

霊夢「今日は遅いわね、魔理沙」

良「？ 魔理沙がどうした？」

霊夢「何時もなら来る時間帯なんだけど・・・」

良「まあ、用があるんじゃないか？ そのうち来るさ」

霊夢「そうだと良いんだけど・・・」

良「なら俺が探してくるか？」

霊夢「大丈夫なの？」

良「地図を貰えば行けるんじゃないか？」

霊夢「何で聞くの・・・。まあいいわ。お願いね」

良「おう、任せてくれい！」

く良也、魔法の森へ出発く

くその頃の魔法の森く

魔理沙「何だよお前、しつこいぞ!」

？「フヒヒ。まあ待て、逃げられると練習にならないだろ？」

男は笑いながら魔理沙に迫っていく。

魔理沙「気持ち悪い奴だぜ、喰らえ、恋符「マスタースパーク」！
！」

分厚い光のレーザーが突っ込んでいく！

？「物騒だなオイww 悪いが効かないぞ〜？」

男に触れた瞬間、レーザーが曲がり魔理沙の方へ返ってきた！

魔理沙「なっ、なんで……………うわああああ！！？」

？「フヒヒヒ、弱いなあ。だがまだ終わらないぜ〜？」

ここから悲劇が始まったのである・・・

出会って（前書き）

前書きなし！（赤）

出会って

あの変人（変態？）の作った世界から帰ってきた俺たちだけど・・・

良「あら？ここ何処だ？」

普通ならばさつきすが居た場所に戻るはずなんだけど、俺たちが居たところはなぜか洞窟だった

良「・・・なんか嫌な感じ・・・」

そりゃー、洞窟って言えばなんかの住家かもしれないじゃん。それに嫌な予感ってもんは結構あたるからな・・・

良「あ・・・、もしかしてな・・・」

もしかしてじゃないって・・・よく見るとなんか座布団的な藁でできたヤツあるし。あれ？でもあいつが洞窟で住むようになったのって確か主の座を梅梅がとったときだったはず？んじゃ、何でここに居るんだ？？

と、そんな風に考え事していると

？「む・・・そこにいるのは誰だ・・・」

ほゝら来たよ・・・

北の主・・・・・・・・・・

くすずサイドく

いきなり良也達が消えてからもう結構たった

消えてからはその周辺をくまなく探した

だけど二人は見つからなかった

今は自分の家に居る

すず「ねえ、とんかつ、ゆっくり。良也達大丈夫だね？」

何でだろ？二人が居ないと落ち着かないし何かそれに・・・

すず「寂しい・・・」

二人とはまだ数日しかないけどとても寂しい気持ちになる

とんかつ「ぷ！ぷ！ぷ！」

ゆっくり「ゆ！ゆゆゆゆ！」

とんかつとゆっくりが励ましてくれる

すず「そう・・・だね！二人は大丈夫だね！」

私はそう自分に言い聞かせて家に入った

二人とも早く帰ってきて・・・

くすずサイドアウトく

く良也サイドく

？「それで、現西の主が俺に何のようだ」

ほら、面倒なことになろうとしてるよ……

良「いや、変なヤツと戦ってたっけよくわかんねーけどここに居た」

嘘は言って……ないよな？

？「ほう……嘘は言っていないようだ……その背負っている少年を見ればわかる」

？あ、行人か。

？「まあいい、今日はこのままここに泊まっていけ」

良「え、いいのか？」

？「ん？なんだ？そんなボロボロの体で北の土地を歩いて帰るのか？」

まあ俺は大丈夫なんだけどやっぱ行人を治療したほうがいいか

良「お言葉に甘えさせていただく、俺は高野良也」

？「俺は・・・大牙だ」

そして俺たちはその洞窟で一晩すごした・・・

チュンチュン、チュンチュン。

良「ん？朝か？」

あゝ、ミラにあの二つの他に創造能力も追加してもらえばよかったと今後悔している

ん？何故かって．．．．時計がほしいんだよ、何だ！悪いか！

大牙「ん？起きたか、早速で悪いが手合わせをしてもらおうか」

良「本当に早速だな。まあいいけど、俺も少し暴れたかったし」

大牙「それならば、そこの砂浜で殺ろうか」

良「字が違う気が．．．ま、いいか。それじゃ行くか、行人はその内起きるだろ」

そして俺たちは砂浜へ向かった．．．．

試合って（前書き）

それにしても、そろそろ冬やな〜（赤）

あまり好きじゃないんだよね・・・（緑）

そうなのかな？俺ア、少し好きな方やで？（赤）

寒いし、夜が長くなるしな。てかOINORII GIRLは良いね（緑）

いきなりどうしたん？？（赤）

いや、今聴いてたから・・・。因みに今はさっきゅんライトね（緑）
そ・・・そうっすか・・・（赤）

試合って

（砂浜（三人称））

良「さあて、んじゃ早速始めるか」

大牙「ああ、だがその前に勝負方法を言っておく」

良「おう」

大牙「勝敗は先に一撃を入れた方が勝ちだ、それでいいな？まあ、本来なら戦闘不能になるか「まいった」と言っただ方が負けなのだがな」

良「いいんじゃないね？その戦闘不能の方で」

大牙「ほう……話が分かるな……俺もその方が手加減せずに全力を出せる」

二人の殺気が強くなっていく

良「んじゃ」

大牙「尋常に」

良&大牙「勝負！！！！」

大牙「はあああ！！！！」

良「うお！いきなりかよ！」

大牙が素早く突きを放ってくる

だが、良也にはきくはずもなく防がれる

大牙「ほう、やはり島最強の名は伊達ではないな」

良「名？」

大牙「ん？知らんのか？」

良「知らないな？どんなのだ？」

大牙「たしか、東では「人外」、俺たち北では「黒き悪魔」、南では「化け物」だったはずだ」

それを聞いた良也は……

良「なんで最もまともそうなのが東だけなんだよ……orz」

赤&緑「東もまともではないと思うのですがwwwwww」

良「おい作者」

赤&緑「ん？」

良「後で俺のところに来い」

赤&緑『（ガタガタガタガタガタガタガタガタガタガタ）』

大牙「？お前誰と話しているんだ？」

良「いや、何でもねえ、独り言だ」

大牙「そうか、では続きといこう！オラオラオラオラオラオラ
！！」

大牙の最も戦闘で使う激しい連打
右、左、下・・・いろいろなところから拳が迫ってくる
だが、

良「無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄！！」

良也には利かない

良「さあて、そろそろって言うてもそんなにやってないけど行人が
起きてくると思うから終わらせるぞ」

良也は写輪眼を発動させ、さらに額から手を振り下ろし……

良「はああああ……！」

虚化をしたのだった・
・
・
・
・
・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4094r/>

ながされて藍蘭島 最強の原作ブレイカー！

2011年10月29日16時08分発行